

声から声を——「学生の意識と行動に関する調査」の 回答を読んで（全学教務の立場から）

人文科学研究科文化関係論専攻アジア・日本文化論分野（中国文学）
落合 守和

1. 調査と回答

・この種のアンケート調査では、項目ごとの5段階評価とは別に、「自由記述」による回答を求めることが多く、また有用である。この初回調査では、第8、第16、第17、あわせて三つの問いが用意された。

・対象学生3299名、有効回答2607名（回答率79.0%）のうち、三つの問いにそれぞれ88件、1044件、1373件の自由記述回答があった。比較的多数の回答が寄せられ、その内容からも積極性がうかがえる。学生は、このアンケートに関する限り「白けていない」と言ってもよいだろう。

・耳を傾けるべき意見が多いのは、これまで2年間の全学共通科目アンケート、授業科目アンケートの自由記述回答と変わらないが、この調査では、学生の勉強と生活がよりストレートに反映しているのではないだろうか。いわば、息遣いがより強く感じられる印象がある。

・問いの設定、回答のカテゴリ分けは、90年代から継続試行する方式（たとえば、『東京都立大学2002（教育活動の改善—評価を活かす—、第6回自己点検・評価報告書』、pp.78-107、を参照）に倣ったもので、相談室・学生課・教務課の協力を得た。

・以下、個々学生の顔が見える？回答をいくつか原文のまま紹介し、報告に代えることとする。このような形式で引用紹介することは、アンケート結果のフィードバックの活動の一つと考える。当日配付資料（全13頁）の補充訂正版は、当委員会ホームページから閲覧できる。（<http://www.metro-u.ac.jp/career/>）

2. 学生の声

【Q8 学生生活で何か問題となることはありますか。】

・学生たちの日々の生活と、この大学の抱える課題がうっすらと見えてくるのではないだろうか。

<朝と夜の授業>

○授業が1～7限まで朝から夜までであるのが辛い。1日に1&7限がある日もあるので。（経営2年）

<アルバイトの時間>

○バイトをしなければ生活が危うくなり、授業にうまく出られない。また、授業が多すぎて自分の時間前やバイトの時間がうまくとれない。（システム2年）

<研究する時間>

○授業を能動的に(予習復習)などすると個人的に研究する時間がなくなる。（環境1年）

<まともなレポート>

○2年になったが、まともなレポートを書いたことがない、というか、実験や工作が無い。上の先輩に聞く限り、このまま3年を迎えてついていけるか不安。（システム2年）

<自分の時間>

○カリキュラムが大変過ぎて、自分の時間がなかなか作れず、日々追い立てられている感じがする。（健康2年）

<子育てをしながら>

○子育てをしながらの勉強なので自分の事情を最優先にできないこと。（休むと先に進めない授業やグループワークは苦痛です。）（健康2年）

【Q16、この大学のどういう点が良いと思いますか。】

【Q17、この大学のどういう点を改善してほしいと思いますか。】

・充足満足型と不平不満型、二つのタイプを見出すことができる。

<充足満足型>

○設備が充実している。○駅から近い。○ゆとりと落ち着きあるキャンパス。○授業選択に融通がきく。（以上、健康1年）

○公立であること。施設や環境がよいこと。○授業のカリキュラムが充実している。○授業の質が高いと思う。○職員の対応のよさ。（以上、法学2年）

<不平不満型>

○実際に学んでいて、これが本当に素晴らしい！と心から思える点が浮かばないというのが本音。○皆が興味を持ちそうな授業が必修とかぶる。○単位上限を超えて申請すると勝手に授業が切られてしまっていて、時には必修授業もきられる。○これらの学習面での不具合が何かと重く感じられる。（以上、理工2年）

・学生から示された個々の意見は、次の九つの項目にカテゴリ分けし、該当する委員会／学部・系／担当する

部課に伝えられた。それぞれ、課題の抽出と改善への取り組み、将来計画への反映が期待される。

1) 教育課程をめぐって

<幅広い知識>○文系・理系に関わらず、幅広い知識をもった人を育てようとしている。(理工1年)

<自由度が高い>○カリキュラムの自由度が高く、教養プログラムに限るが、自分の学びたいものが学ぶことができる点。(システム1年)

<自由に選べる>

○必修が少ないので、好きな授業を自由に選べる。(経営1年)

2) 授業科目をめぐって

<英語の授業>

○NSEの授業がいいと思う。(理工1年)

○新しい大学と言いながら、特に英語などの授業に新鮮さを感じない。中途半端な英語は無い方がましだと思う。(人文2年)

<理系なのに>

○都市教養プログラムで理系なのに経営学に少しながら学べる。(環境2年)

3) 授業内容をめぐって

<何でも勉強できる>

○都市教養プログラムは良いと思います。学部学系を問わず何でも勉強できるから。もっと増やして欲しいです。(法学2年)

<もっと参加型に>

○授業の質がよくない(特にEnglish)。もっと全体的に参加型、presentation、discussionをする授業にすべきだ。(人文1年)

<専門性が低い>

○教職教員の専門性が低く、単なる知識の教授になっている。(人文2年)

4) 時間割をめぐって

<帰ったら9時>

○私の専門のところ、5、6限が多く、帰ったら9時なのです。(人文2年)

<午後の英語>

○英語は3限にして欲しい。(理工2年)

<木曜日の午後>

○木曜日は3限以降に取らなくてはならない授業もないので、教職科目を入れてもいいとおもう。(人文1年)

5) 教員をめぐって

<親しくなりやすい>

○電気電子コースに関して言うならば、規模が小さくて学科の教授がクラスの間と親しくなりやすい。あとキャンパスがきれい、とても。(理工2年)

<一人一人を>

○生徒一人一人を出来るだけ把握しよう、人格的にも優れた社会人にしようと努めているのが分かる。(法学1年)

<アットホーム>

○生物の先生方がアットホームなところ。(理工1年)

6) 学生をめぐって

<素朴な人々>

○人々が素朴で落ち着いた雰囲気のあるところ。(法学2年)

<色々な考え方>

○友達が沢山でき、色々な考え方に触れることができること。(経営1年)

<1年の時は>

○1年の時は、色々な学部と一緒に学校生活が送れるので充実していて楽しかった。(健康2年)

7) 教室と施設をめぐって

<きれいで安全>

○校舎がきれいで気持ちよく勉強ができる。(システム1年)

○夜歩いても怖くない。(環境1年)

<学食と駐輪場>

○去年に比べて新入生が入ってきてから学食も駐輪場も十分な場所が足りていないように感じる(人文2年)

<もっとバリアフリーに>

○学内をもっとバリアフリーにしてほしい(人文2年)

8) 環境をめぐって

<ほどよい田舎>

○田舎過ぎない田舎なところ。(理工1年)

○都心の大学よりも自然が沢山あって落ち着いた環境にあること。(環境2年)

<はなまるうどん>

○大学近くにはなまるうどんがある(理工1年)

<踵にご注意>

○タイル(外)の隙間を埋めて欲しい(足が挟まる)(人文2年)

<自転車!>

○自転車の止め方がひどいので何とかして欲しい。(人

文2年)

9) その他

<掲示板>

○重要な伝達事項掲示に直ぐに気付けないから（毎日掲示板をチェックするのは大変だし、掲示板が見づらい）もっと工夫して欲しい。（人文1年）

○都立大・首都大共通の休校の掲示板でしか掲示されないことがある。（人文2年）

<アンケートの後>

○こうしたアンケートを行なった後の対応が迅速。（人文2年）

○希望なのですが、この結果やアンケートがどのように使われたのかフィードバックしてください。（人文2年）